

苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 2 回 定例委員会
日時	平成27年2月9日 自 13時30分 至 14時44分
場所	市役所第2庁舎2階北会議室
出席委員	委員長 上原 毅 委員 佐藤 郁子 委員 佐藤 守 委員 植木 忠夫 委員 和野 幸夫
欠席委員	
会議録署名委員	植木 忠夫 委員
会議録作成職員	総務企画課総務係主任主事 小坂 喜子
事務局職員	教育部長 澤口 良彦 教育部次長 荒物屋 貢一 学校教育課長 木村 賀津彦 生涯学習課長 瀬能 仁 指導室長 中川 恵介 第1学校給食共同調理場長 宮嶋 和久 総務企画課長 斉藤 拓也 生涯学習課主幹 野水 充 指導室指導主事 仲見 真樹 生涯学習課副主幹 今井 章子 総務企画課副主幹 山地 吉明 学校教育課学務係長 高坂 博幸 総務企画課総務係長 下濱 辰哉 総務企画課総務係主任主事 小坂 喜子
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（上原委員長） … 13時30分
2 会議録署名委員の指名（植木忠夫委員）
3 会議録の承認
（上原委員長） 第1回定例教育委員会（平成27年1月23日開催）の会議録について、何か御質疑ございますか。
（一同「なし」の声）
-会議録どおり承認-
4 教育長の報告
報告をさせていただきます。
1月23日の第1回定例教育委員会会議以降の行事などについて報告いたします。
1月27日に、平成26年度胆振管内教育委員会委員研修会が開催され、委員長を始め全委員に出席をいただきありがとうございました。北海道教育庁総務政策局総務課法制行政管理担当馬場課長から教育委員会制度改革についてと題した講演、そして胆振教育局川端教育支援課長から胆振管内の子どもたちの学力や体力についての説明がありました。
教育委員会制度改革の講演では、大津事件に端を発した教育委員会制度改革について国の動向を交えて説明があり、また、胆振の子どもたちについては各学校の具体的な取組を含んだ丁寧な説明がありました。今後の教育委員としての活動の貴重な資料

になったのではないかと考えております。

次に、インフルエンザの状況であります。逐次新聞報道もありますので御承知のことと思いますが、先週2月6日現在では小学校11学級、中学校3学級が学級閉鎖になっております。昨日のスケートまつりもありましたので、今後も罹患は拡大する方向にあると心配をしているところであります。延べ45学級が閉鎖になっております。

次に、一部の新聞報道にもありましたが、山手改良住宅住民に対する迷惑行為の防止を求める嘆願書の提出が2月4日にごございました。市長を始め市民部、都市建設部、健康こども部、教育部で嘆願を受け、各部にまたがる事案として、今後とも連携をとって対処することを確認いたしました。各学校としては、これまでも厳しく取り組んでまいりましたが、思うような結果に至っていないのが現状であり、地域住民への迷惑行為に本市の中学生や小学生がかかわっていることは大変残念なことと思います。指摘を受けている集団には25歳未満の青年もいるとのことで、行動が発展する可能性もあり、ますます心配をしているところであります。

次に、ネピア苦小牧ブランド化推進プロジェクトについてであります。同日の2月4日に王子ネピア株式会社に取り組む生産拠点における地域密着型社会貢献活動として、本市の小学校図書館整備事業に苦小牧市内の売上金額の一部を寄付する事業であります。市長と、王子ネピア株式会社、商工会議所の三者で協定を締結いたしました。貴重な御厚意を大切に活用したいと考えております。

早いもので3学期も残すところ1ヶ月半であります。公立高校の入試試験や私立高校の入試も始まっております。この時期のインフルエンザの罹患は、中学3年生にとっては、高校受験の大切な時期であり、大変気を遣う使うことでもあります。また、学校経営では、授業時数確保や学習進度に影響を与える学級閉鎖につながることから、こちらも大変気を遣うところでありますし、校長会でも発信をしたいと考えております。

本日の会議は、第19回市議会定例会に向けて平成27年度教育行政執行方針、教

育委員会制度改革の条例改正案、平成27年度の教育予算案など、多くの案件を御審
議いただく議題となっております。御審議をよろしくお願いいたします。
私からは以上であります。
(上原委員長) 何か御質問等ございますか。
(一同「なし」の声)
5 議 案
第1号 平成27年度苫小牧市教育行政執行方針について
(教育部次長) ー平成27年度苫小牧市教育行政執行方針についての説明ー
(上原委員長) 質疑に付します。
(佐藤守委員) まずは、3ページの学力向上推進チームについてですけれども、昨
年は授業改善推進教師LITを公募していくという方針だったんですけれども、今年は
そのほかに授業改善スーパーバイザーSVとか、学力向上研究委員ADS等を加えて
ということですが、人数的に昨年の公募した人数と、今後の推進チームとでは、
どれくらいの人数を予定しているのかお聞きしたいのが1点です。6ページでいじめ
問題子どもサミット、続けていただいているということで、大変良いことだと思います。
これに参加した子どもたちは、小学校でも児童会活動とかやっている、しっかり
した子どもたちが集まっているので、発言内容についてもさすがだなと思うことが多
いと思います。子どもたちのこういった発言の内容を一般の子どもたちにも見せてあ
げたいのか、そういう催しがあった後、子どもたちが学校のほうに戻って、

<p>どのように、それを活用しているのかなという状況をお聞きしたいと思います。7ページのほうですが、図書館について今年度こうするということが、あまり書かれていないような気がするんですけども、図書館のスクール便というのは、なかなか良い制度なので、もう少しPRして欲しいなと思います。それと同じ8ページで、先生方の研修の講座で、昨年と同じトータル的には25講座ということですけども、中身的に、学習指導の研修が8講座と、今日的な課題が17講座ということで、昨年と捉え方が変わっているんですけども、何か変わったところがあれば教えてください。</p>
<p>(指導室長) まず、学力向上に関しまして、詳細につきましては、まだ固めてはおりませんが、現段階の考えとして、授業改善スーパーバイザーSVについては数名6名程度、学力向上研究委員ADSについては8名程度。それから、授業改善推進教師LITについては、16名程度を考えております。今後、若干の数の変更はあるとは思いますが。それから、いじめ問題子どもサミットについても、各学校に、いじめ問題子どもサミットのDVDを配布しております。それを通して、学習していただきたいと各学校をお願いしているところですし、11月には実行委員や指導主事が、中学校区ごとに、参加した児童生徒に集まっていたいろいろなお話をし、事後指導的なものを行ってございまして、その中で4月のサミット以降に、どんな取組をしたかということと、今後の課題やあるいは地域の広がりだとか、そういうことも子どもたちで共有しながら、今後の見通しを持っていくというような機会を設けております。来年については、もう少し先生方への研修の部分ですとか、それから子どもたちへの広がりをもっと確かなものにするような内容を考えていきたいと現段階では考えております。それから研修講座についてですが、トータル25講座という数は変わらないのですが、昨年度は、苫小牧っ子学力UP!ハンドブックを刷新した関係で、それに関する研修が、若干多くなりました。今年度については、それをベースとして、先生方に研修をしていただきましたので、その分、今日的な教育課題に対応した研修を若干増やして合計25講座ということで開設してまいりたいと考えております。</p>
<p>(生涯学習課長) スクールメール便、ブックちゃんのPRについてですけども、</p>

この4月から、管理運営が指定管理業者に変わっているということもありまして、更なるPRを兼ねて、中央図書館の館長のほうで、すべての小学校を訪問いたしまして、
スクールメール便ブックちゃんのPRを行っているところでもあります。まだ利用されていない学校もあるものですから、今現在ブックちゃんは、全部で33セットございますけれども、この内容の整理も図って更に利用が増えるよう、検討していきたいと思
います。
(植木忠夫委員) SV、ADS、LITに関連してなんですけれども、これは当然、指導室が統括するんだろうと思っているのですが、授業改善推進のために、これらは、
独自でも活躍するのでしょうか、お互いに連携もするというふうにおさえていいん
でしょうかね。具体的な手立てみたいなのは、今のところ考えてはいないということ
ですか。エリア構想みたいにして、校区をある程度絞って、SVが6人、ADS
が8人ということですから、エリアみたいな形にして指導していくのか、それとも全
市的な捉え方をして指導していくのかというところが、もし今の段階で決まっている
のであれば教えてほしいというのが1点。もう1点は5ページのこのころの授業という
名前を解消してですね、道徳授業を改善したいというようなことがありますけれども、
従前でしたら、各学校に予算化をしていましたよね、各学校3つぐらいの授業をされ
ていたと思うのですが、この外部人材は、学校現場が人材を見つけて実施するのか、
それとも委員会としてもある程度、人的なものを考えていて学校に紹介するのか、そ
の辺をもしある程度あるのであれば教えていただきたいと思
います。
(指導室長) まず最初に、SV、ADS、LITの具体的な動きなんですけれども、
いま巡回指導教員をしている4名の教員と、それからADSで活躍しております2名
の先生方については、SVとなっていたらこうと考えております。それから、今年度
LITだった先生方で何人かは、ADSに上がっていただき、あらたなLITには、
20代後半から30代前半にかけてこれからという先生方に、期待を込めまして勉強
していただきたいということで考えており、ADSは、30代後半から40代にかけ
ての先生方と考えていますけれども、したがって、SVが、ADSの先生方に対

<p>して、授業づくり、また、L I Tの先生方の授業づくりに対してアドバイスをしています。ADSの先生方は、L I Tの授業改善にもあたりますし、また、本市の学力向上策についても、御意見をいただきながら、御協力いただいております。お仕事をさせていただきたいと、そういった意味でも、有機的に連携と書かせていただきましたけれども、具体的な構想としては、そういう形でいます。それから、こころの授業についても、御質問ありましたけれども、基本的には、予算は教育委員会で持ちます。したがって、授業面ではいのちの授業から、こころの授業に変わって、教育全般で幅広い、そういう講師の方を奨励しながら、学校で、外部講師で道徳の授業を進めていこうと、少し幅を持たせたということですので、基本的な予算の部分ですとか、道徳教育への位置づけということでは、変わらないということで考えております。</p>
<p>(佐藤郁子委員) 説明内容の具体的な部分があるものと、ないものがあるのですが、8ページの研究所の研修の講座数とか、非常に詳しく説明があるのですが、ナナカマド教室ですとか、こころの授業の予定されている講座の回数などがわかりましたら、付け加えていただきたいということが1つと、5ページの特別支援教育のところ、課題として北海道へ強いはたらきかけを行ってまいりますというのは、ずっとやっていることなので、北海道についての書き方は、これでいいのかということと、それから引き続きとか継続してやっていることですから、そこを強調していただければ、長年お願いをしていることでしたので、強く言っていただきたいと思うことと、また、学力のところ、SVですとか、L I Tですとかあるんですが、根本になる授業改正推進改正は、アルファベットの略字とかにはしないのですか。その中に委員だとかアドバイザーとかが入っているので、説明して強調するのであれば、それも頭文字でやってほしい方がわかりやすいかなという、お願いと質問と以上3点です。</p>
<p>(指導室長) こころの授業については、これは具体的な回数というよりも、全部の学校で、行っていただくことですので、あとは、各学校で計画を立てていただいて、いのちの授業のときもそうなんですが、年度途中で、実施計画と実施報告を教育研究所のほうに出していただくことになっていきますので、現段階では、いつ、どこの学校</p>

が、どの学年を対象に、どんなことをするのかというのは、把握しきれない部分がありますので、御理解いただきたいと思います。それから、学力の部分ですけれども、アルファベット2文字3文字と並べることについては、授業改善の本市の全市的な取組については、1つはこういう授業改善スーパーバイザーですとか、学力向上研究委員や授業改善推進教師が中心となって行うのですが、来年度の学力向上アクションプランの一番最初の視点の所で、どういったことを重点に置きながら、また昨年2つ発行しましたハンドブックをどう活用しながら、学校全体で、授業改善に取り組んでいただきたいのかということをもう少し具体的に示させていただきたいと思っております。したがって、教育行政執行方針には載っていませんけれども、4月当初にお示しさせていただく学力向上アクションプランには、もう少し、具体的なものを載せて明確にしたいと思っておりますので、現在検討しておりますので、もう少しお時間をいただきたいと思っております。最後に、特別支援学校の設置については、12月議会で、市長の答弁として、道へはたらきかける、これは道教委ではなく、道に働きかける要望としての、最重点要望としてやっていきますという答弁でございますので、それを受けて、これまでは、道教委という言葉を使ってきましたけれども、北海道へはたらきかけていくということでお示ししたいと思います。以上です。

(生涯学習課長) ナナカマド教室についてのお尋ねがございました。この教室につきましては、平成26年度初めて実施をした事業でございます。この教室の開催目的でございますけれども、何らかの理由で学齢期に就学することができなかった方を対象に、学び直し、勉強するために実施した事業でございます。学習内容でございますけれども、今回初めてということでもあったものですから、まずは、小学校3年生、4年生程度の国語と算数。国語につきましては、漢字の読み書き、文章の書き方。算数につきましては、たし算、掛け算、図形の作図方法。まずは学んでいただきまして、実生活にも役立つ学びとなっております。この教室につきましては定員は20名。申込者数は10名。実際に最後まで受講されたのは8名となっております。全部で5回5日間でこの事業を開催しております。

<p>(佐藤郁子委員) 1つ追加なんです、むすびにののところなんです、初めに苦小</p>
<p>牧のこれからの教育委員会の、学校教育の充実の中にですね、学力向上と豊かな心、</p>
<p>健やかな身体というのが、括弧書きであるものですから、むすびにの中のどこかに入</p>
<p>れておいていただければ、はじめとむすびがあって、ちょっと強調するようになるの</p>
<p>ではないかというふうに思いますので、文言の追加ということをお願いいたします。</p>
<p>それから、ナナカマド教室、新聞などで見まして、夜間中学なんかがあるところは</p>
<p>別ですけど、やはり随分要望があるのではないかと思いますので、もう少し回数</p>
<p>が増えてもいいのかなと思いつつ、記事などを拝見していましたので、今年の計画</p>
<p>などをお伺いしたいです。</p>
<p>(指導室長) 御指摘のむすびの部分ですけども、確かに2ページには、学校教育</p>
<p>の充実のところに確かな学力、いわゆる学力向上、豊かな心、健やかな身体について</p>
<p>うたっております。これはまさに生きる力を育むということにして、むすびのところ</p>
<p>では、こうした生きる力というのは、いわば今の時代にあった社会を生き抜く力であ</p>
<p>るということをここで改めて入れさせていただいていますので、そういった意味では、</p>
<p>生きる力という中には、先ほど出てきた確かな学力、豊かな心、健やかな身体という</p>
<p>ものが含まれるということで御理解いただければと思います。</p>
<p>(佐藤郁子委員) はい。わかりました。</p>
<p>(上原委員長) 私のほうから何点か。まず第1点は、大項目で、学校教育の充実と、</p>
<p>生涯学習の充実といった2点を挙げてあります。第1点目の学校教育の充実について</p>
<p>は、平成26年度と一緒。2点目の生涯学習の充実に関しては、平成26年度と変わ</p>
<p>っていたので、以前1月に、実は執行方針の意向等を聞かせていただいたときに、確</p>
<p>か平成26年度と同じようなタイトルを使っていたと思うのですが、それが変わった</p>
<p>理由について教えていただきたいと思つてます。それから全体的な印象ですけども、</p>
<p>平成26年度の方針の中で使われた文章が随分使われております。それに比べて、同</p>
<p>じところもあるのですが、より踏み込んだ親切な内容になっているのではないかと感</p>
<p>じております。そこでですが、新規事業あるいは、昨年より踏み込んだ内容のもの、</p>

そしてあるいは強化した事業があると思うのですが、そういうものに関して、例えば太字を使うとか、修飾をするとか、そういう表現が使われたほうが、より市教委としての、方針が出てくるのではないかという印象がしたものですから、その点どう考えてられるのかということが2点目です。細かい内容になりますが、平成27年度の予算と関連する部分も随分と出てきますので、細かい部分はそちらのほうに、まわすこととしまして、2ページの今年は徹底と継続と一貫をキーワードに新たな学力向上アクションプランをつくるということで、先ほど、佐藤郁子委員の質問の中で、具体的な内容については、まだ検討中で4月ぐらいに明らかにしたいというお話がありましたが、今考えておられる、基本的な考え方といいますかね、おそらく今までの学力向上アクションプランの中身をおそらく点検されていることだろうと思いますので、その点、どんな基本的な考え方でいらっしゃるのか、それが1つですね。それから5ページのこころの授業ですが、これも最初に植木委員のほうから質問がありました。財源的な面も含めて質問があったんですが、いのちの授業がこころの授業へと改めるといことなんですけれども、その上に書いてある、第2はの以降、1行目から5行目までの内容は平成26年度と同じなんです。これから考えてくると、いのちの授業をこころの授業に改めるという意味がよくわからないんですよ。ですから今年度からこころの授業に改めた考え方を教えてください。表現的には良い表現ではないかなと思っていましたものですから、その辺、どんな考え方でされたんですか、その点について教えていただきたいと思います。それから7ページですが、こうしたことから、子どもたちの学びの環境づくりに向けては、小中学校規模適性化地域プランにおける課題を整理するというふうに書いてあります。この課題が具体的にわからないのですが、この課題について教えて下さい。それと9ページの下段のほうですが、市民の学習ニーズに応えるために生涯学習だよりやサークルガイドなどによる学習情報を提供していくというふうに書いてあります。生涯学習だよりを毎年もらうのですが、毎年の中身が同じなんです。それで、文字も結構小さい文字なものですから、今、我々も含めて高齢者が増えてきましてね、できればもっと見やすいような内容、あるいはもう1

つ言えば、保存版と言いますかね、1年間使えますので、良い材料になるのではないかと考えていますので、そういう中身のデザインと言いますか体裁ですとか、様式ですね、保存版、まあこんなものが考えられないかどうかですね、その点について教えていただきたいと思います。以上です。

(指導室長) 前半の4点について私のほうからお答えさせていただきます。まず1つは項目の御質問でございましたが、実は、学校教育の充実のところの3つの項目も、平成26年度の教育行政執行方針から変えた部分です。冒頭、次長のほうからも説明させていただきましたが、苫小牧市の教育の重点を踏まえたということで、平成20年の4月にできました苫小牧市の教育を方向づける根幹があるのですが、この教育の重点を踏まえた上で、5つありまして、そこから上から3つが学校教育、下から2つが生涯学習の充実ということで、今年度は学校教育だけじゃなくて、生涯学習の底上げをきちんと成功させて今後の方向を整理したということで、このような形になりました。ですから今後は、苫小牧市の教育の重点が見直されれば、また項目は変わると思うのですが、そうでなければ、この項目に従って施策を充実させていく、あるいは推進していくという形になるかと思っています。それから2つ目の御質問ですが、新規事業に関しては太字あたりで明記してというような、御指摘をいただきました。実はこの後、広報とまこまいに載せるような、市民向けの教育行政執行方針をつくります。その際には、今、御指摘いただいたような新しい事業ですとか、それから教育委員会として力を入れて進めること、こういったことを中心に概要版にまとめて市民の方にお示しさせていただきたいというふうに思っております。それから、3つ目の学力向上に関わるキーワードですが、この学力向上アクションプランという今の形になってからは、3年が終わることになります。新たな4年目ですから、中学校で言えば1サイクル終わったということで、3年一区切りにして学校差ですとか地域差、当然そこには、地域や学校に特徴的な課題があると思うのですが、こうしたことを踏まえて、できればすべての学校が同じ方向で、同じ取組をしていくと、つまりオール苫小牧というような取組を、27年度については展開していきたいというふうに

思っております。したがって、冒頭出てきました、今年度のキーワード、徹底というのは、どこの学校でも同じような取組をしていくんだということ。それから、これまでやってきたことを継続していく、そして、一貫というのは、小学校から中学校へという意味もありますけれども、取組を一貫して、継続して、徹底していくという、そういった形で今年度については、学力向上の取組を進めてまいりたいというふうに考えております。基本的な3つの視点については、平成24年度から変わらず、そこが苫小牧市の課題であるという認識のもとに取り組んでいきたいというふうに思っております。それから最後、4つ目のこころの授業のことですが、実は、いのちの授業ですと、例えば講師の方がいのちにかかわること、あるいは、生死の体験をこれまでできて、それについて子どもたちに伝えるかどうかということで、講師を選定する上で、非常に狭いお話になるというか、講師を選ぶにしても非常に難しい状況であります。ただいのちにかかわらず、大変素晴らしい体験をした方もいらっしゃいますし、心の肥やしになるような、そういった体験のお話をお持ちの方も、たくさん市内にはいらっしゃいますので、そういった方々を、外部講師としてお招きして、道徳の授業を行うというそういう意味合いで、授業名を幅広く変えたという、そういう経緯がございますので、そのところを御理解いただきたいと思っております。以上でございます。

(生涯学習課長) 生涯学習だよりについてのお尋ねがございました。毎年内容は同じもので、文字が小さい、もっと見やすい内容にしたかどうかということと、保存版についてのお尋ねだったと思います。この生涯学習だよりにつきましては、各公共施設ですとか、出前講座、こういったものを市民の方に周知し、多くの方に参加してもらうという主旨のもとで、生涯学習だよりは作成しているものでございます。この内容につきましては、年2回発行しておりますけれども、今回は、今度の4月発行でございますけれども、この見やすさ等につきましては、生涯学習推進アドバイザーとも協議して検討していきたいと考えております。保存版ですけれども、こういった形のものが良いのか、これにつきましても、内部で協議させていただきたいというふうに思っております。以上でございます。

<p>(総務企画課長) 地域プランにおける課題を整理してお話していきたいと思います。</p>
<p>今回示しました地域プランについては、一応教育委員会として方向性を示したという内容になっています。明德小学校の統廃合、東小中学校の併設校、沼ノ端については課題が違うかと思いますが、課題としては、実際の実施時期等も、まだ示しておりません。そういった実施時期の問題、明德小については跡地利用の問題、それと錦岡小学校に特別支援の増設ということもあります、そういった問題。あと東小中学校の併設となれば、校区が課題ということになっておりますので、こういった校区をどうしていくのかということも含めて、今後課題整理していかなければならないということもございますので、一応ここで課題を整理し、その後に順に説明を行いたいということでございます。</p>
<p>(上原委員長) わかりました。</p>
<p>(佐藤守委員) 先ほどの室長の話の中で、2ページのオール苦小牧ということで、どこの学校も同じような形で、徹底、継続、一貫というようにお話をされていたんですけども、昨年も苦小牧は、学校間の格差があるのではないかとと思われるんですけども、それをオール苦小牧でいくとなかなか難しいのではないかと、そういう格差があるところにはどうするのかなど。昨年うたってあったんですけど、今年は格差が無くなったという判断をされているのかどうか。それから6ページの不登校問題支援チームというのは、昨年もうたわれているんですけども、実際にあって機能しているのかどうかということが2点目。3点目は8ページの学校評価のところ、これは、今年から新しくなったと思うんですけども、学校評価の充実をはたらきかけてまいります。そして、その結果に応じて、学校に対する支援や条件整備の措置を講じ、というのが新しく入ってきた項目だと思うんですけども、この評価の充実というのは、どのようなことを考えられていて、学校に対する支援や条件整備の措置をとるといことは、どのようなことを、具体的にもし決まっていれば教えていただきたいと思います。この3点です。</p>
<p>(指導室長) まず、学校間格差の問題ですけども、学力に関してですが、オール</p>

苫小牧というよりは、同じ取組を、すべての学校で、あるいは同じ方向性をすべての学校で、共有しながら進めてまいりましょうという意味合いがございます。特に、やはり苫小牧は東西長いですから、地域における課題というか大きな差がございます。そういった中では、小中学校間の連携ということで、今年度は学力向上エリア会議というものを、もう少し具体化させて、機能させるような取組を強くはたらきかけていきたいと思っておりますし、地域の課題は地域で共有して、そして地域の方が中心となって、地域住民と協力しながら課題解決に当たっていくという、そういう形で取組を進めてまいりたいというふうに思っております。したがって、昨年度の課題が大きく解決したかという点、そうではなく、継続して、長い時間がかかると思っておりますので取り組んでいきたいと考えております。それから不登校の問題について、不登校問題支援チームですが、8月と1月に実際に開催しております。専門的な見地から御意見をいただきながら、どうも解決に向けての切り口が見出せなかった、そういう事案については、例えばひきこもりの子どもが適応指導教室に通えるようになったとか、大きな進展をみせるケースもございますので、私どもとしましては、大変機能しているものだと思っております。3点目の学校評価の部分でございますが、8ページの下、5行目から書かさせていただいたことは、将来的にはコミュニティスクールを導入に向けて、保護者、地域住民の理解と参画を得る、開かれた学校づくりをしていかなければならないと、既に北海道教育委員会で道内の10%程度の学校で、導入を図っていくという、そういうものが示されておりますので、やがて近い将来、苫小牧でも、取り組んでいかななくてはならない問題ではないかとおさしております。したがって、しっかりとした学校評価の充実を行って、そして、そこで出てきた課題に対して教育委員会として、あるいは人的支援ですとか、あるいは財政的な支援、それから条件整理、これらは、あくまでも、子どもの学びの環境に関する問題だというふうにおさえておいていただければよいと思っておりますけれど、こうした措置を講じていて、市内どこの学校も、一定の教育水準で、教育の質を向上していきたいという考えでいるところであります。

(佐藤守委員) ありがとうございます。
(上原委員長) はい。ほかにございますか。それでは、質疑がないようですので、原案どおり決定することよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
－原案通り決定－
第2号 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例について
(総務企画課長) ー地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例についての説明ー
(上原委員長) 質疑に付します。何かございますか。質疑がないようですので、原案どおり決定することよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
－原案通り決定－
第3号 平成26年度教育費補正予算について
(教育部次長) ー平成26年度教育費補正予算についての説明ー
(上原委員長) 質疑に付します。質疑がないようですので、原案どおり決定するこ

とでよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

—原案通り決定—

第4号 平成27年度教育費予算について

(教育部次長) —平成27年度教育補正予算についての説明—

(上原委員長) 質疑に付します。何かございませんか。最初に私の方から何点か。

まず第1点は、この一覧表といいますか、いただいた表ですけれども、線が消えているんですね。縦線と横線がないです。例えば、188ページ。財源の内訳のところに、その他って一般財源がありますよね。これ最後まで線がないです。それから、次の189ページ。これ、目が終わった段階で横線が入るんですが、3目の教育指導費のところに、横線が入っていないんですね。普通は切ってあるんですけれども。まあ単純な印刷ミスかなと思うのですが、その点お願いいたします。それから昨年度、臨時事業費の総括表といいますか、それをいただいたんですが、今年度はついていなかったものですから、できればいただきたいかなというふうに思います。臨時事業費は、トータルをすればわかるんですけれども、1つ1つ表というのは、ちょっと大変なものですから、それと経常費と臨時事業費、政策の部分と比較が可能ですので、その面でいきますと、臨時事業費の総括表を昨年はいただいているので、もしよろしかったら、いただきたいというふうに思います。それから教育総務費に関連してくるだろうと思うのですが、今年8月に北海道都市教委連の総会が苫小牧で開かれます。これに関する経費といいますか、費用は計上しなくていいのかという点ですね。その点を教えていただきたいと思います。それから199ページ、小学校費の中の教育振興費で

すね。ここで説明の中で教育扶助費と、遠距離通学費等補助金というのがありますが、教育扶助費に関してなんですけれども、これは202ページの中学校も同じような傾向ですが、年々多くなっているような気がいたします。実際には生徒数が、少なくなってきたのではないかと思います。その割に扶助費が増えてきているということで、その原因について教えていただきたいと思います。それから遠距離通学費等補助金。これは、おそらくまとめたものを計上してあるのではないかなと思うのですが、例えば、前年度までですと、通学費の補助金が幾らとか、樽前地区遠距離通学費補助金が幾らとか、特別支援学級通学・通級児童付添者交通費補助金とか、あるいは特定地域バス通学児童交通費補助金とか、こういうのが昨年の予算案にはありました。今年はこの項目がありませんので、おそらく遠距離通学費等補助金の中に、トータルをして計上してあるのかなという気はしているのですが、もしそうであるかどうかですね、これは203ページの中学校費も同じような内容で書いてありますので、その点を教えていただきたいと思います。もう1点、198ページの児童用の机椅子整備事業費ということで、先ほどちょっと説明があったと思うのですが、以前は教師用ということでも載っていたとは思いますが、教師用に関しては、終わったというふうに理解していいのかという点について教えていただきたいと思います。

(総務企画課総務係長) 私のほうから、まず、資料の線が消えているということで、すけれども、財政課から送られてきた資料をそのままお持ちしたんですけれども、確認不足でしたので、一部修正したものを御用意したいと思います。また臨時事業の内訳表について、この場に用意できなくて申し訳なかったんですけれども御用意したいと考えております。あともう1点、北海道都市教委連の総会の関係だったんですけれども、総会につきましては、都市教委連の事務局のほうから、開催地の負担にあたる50万円が用意されることになっております。前年の開催地のほうにうかがいましたところ50万円で、十分賄えるということでしたので、27年度教育費予算としては計上しておりません。以上でございます。

(上原委員長) はい、ありがとうございます。

<p>(学校教育課長) 予算の関係で扶助費の増について御質問がございましたけれども、若干上がる傾向がございますけれども、極端に上がっているわけではございませんので、その中で、給食費の値上げですとか、それから修学旅行費なんかも、研修場所によりまして、単価が少し上がる場合がありますので、財源としては多めに計上しております。特別支援教育就学奨励費扶助につきましても、特別支援学級に通うお子さんは、減っている状況にはございませんので、そういう部分などで出てくる部分がありまして、全体的に増えている状況でございます。それから、遠距離通学費等補助金についてなんですけど、昨年まで樽前地区遠距離通学費補助金ですとか、特別支援学級通学・通級児童の付添者交通費補助金とかがございまして、それについては、事業をトータルしておりまして、個別の事業で、たとえば廃止にしたとかそういうことではございません。</p>
<p>(総務企画課長) 机・椅子の整備については、教師用の更新ではなく、児童用の更新を考えております。児童用については、新JIS規格の物の導入が終わっていないということで、随時高学年のほうから今導入していつている状況であります。今年度は小学校4年生について整備いたしました。この事業につきましても、特定防衛施設周辺整備調整交付金で対応できるということでございましたので、来年度は3年生、その後2年生、1年生というように新JIS規格にすべて取りかえていきたいという方針でございます。</p>
<p>(上原委員長) 教育扶助費の件なんですけど、ちょっと理解できないんですけど、いろいろな手立てもありますし、例えば今、まったく父兄の中で知らないでね、そういうふうなものがあるのかなという気もするものですから、また父兄の話の中で、いろいろな話が出ているみたいですね、もしかして、PR不足というのものもあるのかもしれませんが、ただ、増えてきているということは、何らかのそういう理解も得て増えてきているのかなと思うのですが、ただ一番難しいのは、先ほども言いましたように、こういうものが、なかなか、必要とされないようなのが一番よいのでしょうか、教育の均等という面でいくと、必要なのかなという気もしています。ただ遠距離通学</p>

<p>費等補助金なのですが、これは先ほど私が、昨年度の例を挙げて言いましたが、同じ</p>
<p>ような内容で支出をするというお話がありましたので、昨年度と金額も変わらないん</p>
<p>でしょうか。例えば、小学校の遠距離通学費等補助金、昨年度は当初予算が162万</p>
<p>円なんです。通学費補助金、それから樽前地区遠距離通学費補助金ですとか、特別</p>
<p>支援学級通学・通級児童付添者交通費補助金、特定地域バス通学児童交通費補助金。</p>
<p>これを合わせると当初予算で162万円。今年度はもし同じ内容で、出てきていると</p>
<p>すれば、トータル的に147万4千円ですから、金額的には少なくなっているんです</p>
<p>ね。全く同じ内容と理解していいのか、同じようなことは中学校の中にも書いてあり</p>
<p>ますから、そういう理解でよろしいでしょうか。</p>
<p>(学校教育課長) 引き続き同じ事業でありまして、児童の通学する距離ですとか、</p>
<p>特別支援学級に通う人数ですとか、それから中学校では、新たに開設した中学校もあ</p>
<p>りますので、そういったことのトータルです。決して、事業自体を変更したとか、</p>
<p>そういうことではございません。それから、先生方からも、保護者へのPRは毎年行</p>
<p>っておりまして、4月末から5月上旬にかけて、各学校で、全保護者に対してPRを</p>
<p>行っておりますし、新たに新入学する新1年生等についても案内を予定しております</p>
<p>ので、今後ともPRについては、進めてまいりたいと思います。</p>
<p>(上原委員長) これは要望ですけれども、遠距離通学費等をトータルで書かれるの</p>
<p>も構わないんですが、より親切な面からいけばですね、昨年度と同じ様に項目別に書</p>
<p>いておいたほうが、我々も理解しやすいですし、説明欄ですからできればそういうふ</p>
<p>うな方向で、またお願いできればというふうに思っています。これは要望で結構です。</p>
<p>(佐藤守委員) 図書費に関して、補正なんかでもよく流用という文言が出てくるん</p>
<p>ですけれども、これは、なにか理由があるのか教えていただきたいと思います。</p>
<p>(学校教育課長) 備品と消耗品の関係になりますが、図書ですと、1万円以上が備</p>
<p>品になったりですとか、当初消耗品でついていた予算で、最終的に購入した結果、当</p>
<p>初予定していた消耗品が、金額により備品になるとかいうことがあります。例えば、</p>
<p>書架、本を整備する上で、本棚ですとかそういった物の購入でも、消耗品の購入では</p>

なく、備品購入にかわっていくということが、理由としてあげられます。

(佐藤郁子委員) 190ページの適応指導教室運営経費の適応指導教室というのは、あおば学級ということで理解してよろしいのかということと、192ページの特別支援教育支援員設置事業費の特別支援教育支援員は、この適応指導教室の中に、担当されているのか、すごくわかりづらかったです。職員はわかるんですが。現在、あおば学級だけと理解してよろしいでしょうか。

(指導室長) まず190ページの適応指導教室運営経費は、あおば学級です。192ページの特別支援教育支援員設置事業費というのは、通常学級において、特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、この支援員が入って、学習指導を行うという事業ですので、昨年の段階で18名。適応指導教室とは違います。

(佐藤郁子委員) わかりました。もう1点。給食費扶助についてですが、給食費の未納の状態と関係があって増えているのかどうかを教えてください。また、給食費を納めるようにということで、職員の方が苦慮されていると思うのですが、その効果を、わかる範囲で結構ですので教えてください。

(教育長) 給食費扶助は、本人を通さずに直接給食調理場のほうに入りますので、収納率でいうと100%になります。また、給食費については、後ほど、その他でお話いたしますが、給食費の収納率は確かに上がっております。

(上原委員長) ほかにどうでしょうか。ないようですので、原案どおり決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

—原案通り決定—

(上原委員長) 次に、議案第5号は、人事案件等でございますので教育委員会会議

規則第21条の規定により秘密会としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

—原案どおり決定—

6 協 議

(上原委員長) 次に、協議事項お持ちの方いらっしゃいますか。

(一同「なし」の声)

7 そ の 他

(1) 苫小牧市立北光小学校改築計画(案)について

(総務企画課長) —苫小牧市立北光小学校改築計画(案)についての説明—

(上原委員長) 質疑に付します。

(佐藤守委員) プールが今まであったのが、無くなるというのは、何か問題があったからですか。

(総務企画課長) 現在、プールは、形はあるのですが、使用しておりませんので、使えないプールということです。そういう意味で撤去させていただくということです。

(佐藤守委員) もう1つ。児童館は近くにあるんですか。

(総務企画課長) 児童館はないです。

(佐藤守委員) ここは併設しないんですか。

(教育長) 用地としては、ありますけれど、まだつくるという話はしていません。
(総務企画課長) 児童館は近くにございませんですが、留守家庭学級については、この中に設置するという考えでいます。8ページの平面図の2階。特別活動室という、広い部屋があるのですが、一応そこを利用するという計画でおります。
(植木委員) 教材園っていうものは考えていないんですか。この図を見ると、芝生ですよね。確か昔のはなぞの幼稚園の跡地があるんですよね。そこを学校用地として、市の管財課のほうが、学校に移行してくれればと。今現在も畑として使わせてもらっているはずですが。だから、もしそこを使わせてもらえるなら、学校としてもよいのでは。
(総務企画課長) この図面には、幼稚園跡地を載せておりませんが、実は幼稚園跡地というのがあります。今現在も農園とかで利用しております。そのまま、この場所を農園地として利用することも可能でありますし、玄関のここは多目的広場というふうにつけておりますので、この辺は、どのように使うのかということをお学校のほうで検討していただければと思います。
(植木委員) わかりました。ありがとうございます。
(上原委員長) ほかによろしいですか。ほかに質疑がないようですので質疑を終結いたしたいと思います。
(2) 平成27年度苦小牧市学校給食会予算(案)について
(第1学校給食共同調理場長) ー平成27年度苦小牧市学校給食会予算(案)についての説明ー
(上原委員長) 質疑に付します。
(上原委員長) 私のほうから。副食の牛乳についてなんですが、これ年々本数が減

ってきているんです。おそらく先ほどお話があったように、生徒数の関係ですとか、あるいはメニューの関係ですとか、もしかしたらアレルギー対応に関してのこともあるのかなというふうに思っていたんですけれども、本州のほうといたしますか、牛乳を廃止されたようなところもあったということで、ニュースにもあったんですが、その減っている理由と、どのようなところまで考えられているのかをちょっとお聞かせいただきたいと思います。

(第1学校給食共同調理場長) 牛乳が減っている理由として、先ほどおっしゃったように、生徒数が減っているというのがあります。それと、アレルギーということもあって代替して、麦茶を出したり、それにつままして、年々増えるという傾向になっております。それと和食に牛乳が合わない。牛乳を嫌がる子どもが増えているということがあるんですけれども、カルシウムを一番取りやすいのは牛乳というものもあります。従来通り牛乳を続けていきたいなどは考えております。

(上原委員長) 1点、忘れていたのですが、事務局費の中の集金費なんですけれども、これシルバー人材センターのほうに、委託をされてやっていたんじゃないかなと思います。おそらくこの収納率も関係してくるんですけれども、大変、成果をあげているんじゃないかと思います。成果を上げれば上げるほど、集金の方法にもよると思うのですが、上げれば上げるほど、集金費が増えていくんじゃないかなと、そんな懸念を持っているんですが、そういうことは特に問題ないのでしょうか。

(第1学校給食共同調理場長) 直接、保護者の方にお会いしております。やはり私も、最初をお願いしているのは、銀行からの引き落とし、もしくは振込用紙での振込、というふうをお願いするんですよ。なかなかそれが習慣づかないという方がたくさんいらっしゃいます。そうするとやはり、直接取りに行きますというふうになれば、確実に集金できるとあって、集金にうかがいますというふうに対応する数が増えてきている現状にあります。

(上原委員長) はい、わかりました。ほかにございますか。ないようですので質疑を終結したいと思います。

(一同「なし」の声)

8 委員会閉会の宣言（上原委員長）・・・14時44分